

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：11301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652011

研究課題名(和文) 近世仏教を見直す - 天台宗を中心に -

研究課題名(英文) Rethinking of the Buddhism in early modern era of Japan ; Mainly on Tendai sect

研究代表者

曾根原 理 (Sonehara, Satoshi)

東北大学・学術資源研究公開センター・助教

研究者番号：30222079

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：日本の近世仏教思想史の研究を新たな段階に進めるためには、従来着手されてきた個別事象の解明だけでは不十分である。中央の目立った事件だけでなく、より広い基盤となる地方寺院の動向を探る必要がある。思想史の方面で扱われることの乏しかった地方寺院の知的状況について、今回の研究で滋賀県の天台寺院の蔵書調査を実施したことで、一定の理解を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：Sole emphasis on the elucidation of individual phenomena, which has been the received practice thus far, is insufficient for research in the Intellectual History of Early Modern Japanese Buddhism to progress to a new stage. Moving beyond a narrow focus on historically outstanding central events, there is now a need to deepen our understanding of trends which took place throughout the wider base of Japanese Buddhism: regional temples. The field of Intellectual History has thus far paid little attention to the intellectual environments in regional temples. This research project, in which a survey of documentary materials held in Tendai temples in Shiga Prefecture was carried out, has shed light on various aspects of those environments.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：近世仏教 天台宗 延暦寺 戸隠山 地方寺院 神仏習合思想

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本仏教の研究は、辻善之助のいわゆる「近世仏教墮落論」の影響もあり、長い間古代・中世に偏っていた。しかし実証的研究の進展により、近年ようやく近世・近代にも関心が持たれるようになってきた。

(2) 仏教思想に限るなら、近世で多少の研究史があるのは、先行研究の比較的多い真宗史を除くなら、なお安楽騒動(天台宗)や華嚴教学研究にとどまる。これらは、教団中枢部の動向や、著名な学僧の活動に依拠している。

(3) より社会的な広がりのある思想動向として、三教一致説や神仏習合思想の動向が考えられる。また、地域の思想動向は、教団中枢部だけではとらえられない側面もあったのではないかと想像されるが、調査に着手されることは乏しかった。

2. 研究の目的

(1) 研究の遅れている真宗以外の近世仏教思想について、解明を試みる。

(2) 従来それなりに注目された著名な学僧や中央の大寺院における仏教教学ではなく、注目されることの薄かった地方寺院における仏教教学や仏教思想を調査し分析する。

(3) 地方の天台宗寺院の蔵書を調査し、中央の大寺院とは異なる位相で、近世の仏教思想が受容されていた痕跡を探る。

(4) 民間に近い思想動向を探るため、三教一致説や神仏習合思想の展開に注目する。

(5) 天台宗の正統教学に限定せず、神道や修験道を含む様々な宗教動向を把握し分析する。

3. 研究の方法

(1) 上記を達成するため、まず地方寺院の蔵書に関する史料調査を実施した。具体的には、次のとおりである。

【2011年(平成23)】

4月30日：成菩提院(滋賀県米原市)
調査参加者は曾根原理、大島薫、青谷美羽

7月30-31日：成菩提院
調査参加者は曾根原理、青柳周一、井上智勝、梅田千尋、東幸代、朴澤直秀、藤田和敏、青谷美羽

9月4日：叡山文庫(滋賀県大津市)
調査参加者は曾根原理、

10月22-24日：成菩提院

調査参加者は、曾根原理、松本公一、大島薫、青谷美羽、川嶋貴美子、青柳周一、井上智勝、梅田千尋、東幸代、朴澤直秀、藤田和敏、松金直美

11月13日：大津歴史博物館(滋賀県大津市)
調査参加者は曾根原理

【2012年(平成24)】

3月5日：身延山(山梨県身延市)
調査参加者は曾根原理、大島薫

7月21-22日：成菩提院
調査参加者は曾根原理、青柳周一、梅田千尋、東幸代、朴澤直秀、藤田和敏、松金直美、青谷美羽

9月30日-10月1日：成菩提院
調査参加者は曾根原理、松本公一、大島薫、青谷美羽、川嶋美貴子

10月20-21日：成菩提院
調査参加者は曾根原理、青柳周一、井上智勝、梅田千尋、朴澤直秀、松金直美、青谷美羽、望月良親、武部愛子、林晃弘

12月25日：国会図書館(東京都千代田区)
調査参加者は曾根原理

【2013年(平成25)】

2月15日：国学院大学図書館(東京都渋谷区)
調査参加者は曾根原理

7月27-28日：成菩提院
調査参加者は曾根原理、青柳周一、井上智勝、梅田千尋、朴澤直秀、望月良親、松金直美、青谷美羽、藤田和敏、林晃弘

8月30日-9月1日：成菩提院
調査参加者は曾根原理、松本公一、青谷美羽、川嶋美貴子、万波寿子、大島薫

12月7-8日：成菩提院
調査参加者は曾根原理、青柳周一、朴澤直秀、梅田千尋、松金直美、青谷美羽

(2) 現地調査の成果を検討しフィードバックすることや、成果報告のための調整などを目的とし、打ち合わせの会議を開催した。時には関連機関の研究者や学芸員の方にも関わっていただいた。

【2012年】

10月15日：滋賀県大津市
参加者は曾根原理、大島薫

【2013年】

5月1日：東京都港区
参加者は曾根原理、大島薫

【2014年】

2月22日：名古屋市
参加者は曾根原理

3月8日：京都市

参加者は曾根原理、松本公一、
大島薫、青谷美羽、杉山俊介

(3) 調査を通じて、近世社会の仏教的な基盤は、諸教一致説や神仏習合思想に見られることを、従来以上に強く感じるようになった。その点を天台宗を中心に、関連する禅僧や神道者にも手を広げて調査し、口頭発表や論文作成を行った。

(4) 二度の機会を得て中国で開催された国際研究集会に参加し、日本仏教の研究状況、特に近世仏教研究の現状に関する報告を行い、国内外の関連する研究者と意見交換を行った。

(5) 関連する史料の調査と、2013年度末の国際ワークショップ報告の準備を兼ねて、2013年(平成25)に渡米し、6月28日にコロンビア大学(ニューヨーク市)7月2日にプリンストン大学(プリンストン市)を訪問した。各大学において蔵書の調査を行った(予備調査を含む)。その際に、ハルオ=シラネ教授、ジャクリーン=ストーン教授に面会し意見交換の機会を得た。また、図書館司書の方々に蔵書の解説をうけるなどの活動を行った。

4. 研究成果

(1) 滋賀県の地方寺院(天台宗)の所蔵資料(文書類)を2000点程度整理し、近世の米原市周辺の地域的動向や、宗派内の諸寺院の関係性などを解明した。

(2) 近世における、主に儒者と仏教僧の論争を調査・分析し、三教一致思想の影響が広範に見られた様子を明らかにした。

(3) 近世仏教の研究を続ける材料として、天台宗史料や禅宗史料を撮影し、また複製を入手した。

(4) 国内では山岳修験学会など、国外でも米国アジア学会などで成果報告を行い、内外の研究者と議論し、近世仏教に関する認識を深めた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

曾根原理・朴澤直秀・藤田和敏・松金直美、成菩提院所蔵近世文書の諸相、日本仏教総合研究、査読有、11号、2013、111-125

青柳周一・曾根原理・松金直美・藤田和敏・梅田千尋・朴澤直秀、米原市柏原成菩提院所

蔵史料の紹介と解説(二)、滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要、査読無、45号、2012、43-62

〔学会発表〕(計5件)

曾根原理、The Addition of Waka to Late Medieval Shinto Documents、International Workshop “New Sources for the Study of Japanese Religions”、2014年3月15日、プリンストン；米国

曾根原理、日本近世仏教研究の現状と課題、蘭州大学日本語・日本文化研究会、2012年9月14日、蘭州；中華人民共和国

曾根原理、戸隠山別当乗因における靈宗神道説、日本山岳修験学会第33回大峰山学術大会、2012年9月9日、奈良県吉野郡天川村

曾根原理、Tendai Shinto in the Muromachi Period: The Changing Aspect of Sanno Gongen、2012 Conference of the Association for Asian Studies、2012年3月15日、トロント；カナダ

曾根原理、日本近世仏教が注目した明代仏教、東北亜地区多元文化共生実態研究国際学術検討会、2011年8月3日、シリンホト；中華人民共和国

〔図書〕(計2件)

曾根原理 他、佼成出版社、奥田聖應先生頌寿記念インド学仏教学論集、2014、1156(1088-1094)

曾根原理 他、勉誠出版、神仏習合再考-日本における諸宗教のあり方-、2013、400(317-337)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

曾根原理 (SONEHARA, Satoshi)
東北大学・学術資源研究公開センター・助教
研究者番号：30222079

(2) 研究協力者

牧野 和夫 (MAKINO, Kazuo)
実践女子大学・文学部・教授
研究者番号：70123081

松本 公一 (MATSUMOTO, Koichi)
池坊短期大学・教授
研究者番号：60442258

大島 薫 (OSHIMA, Kaoru)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：50319604

青谷 美羽 (AOTANI, Miu)
京都造形芸術大学・芸術学部・非常勤講師
研究者番号：10578719

青柳 周一 (AOYAGI, Shuichi)
滋賀大学・経済学部・教授
研究者番号：40335162

朴澤 直秀 (HOZAWA, Naohide)
日本大学・法学部・准教授
研究者番号：70377696

井上 智勝 (INOUE, Tomokatsu)
埼玉大学・教養学部・准教授
研究者番号：10300972

梅田 千尋 (UMEDA, Chihiro)
京都女子大学・文学部・准教授
研究者番号：90596199

東 幸代 (AZUMA, Sachiyo)
滋賀県立大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：10315921

林 晃弘 (HAYASHI, Akihiro)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：10719272

藤田 和敏 (FUJITA, Kazutoshi)
相国寺・寺史編纂室・研究員
研究者番号：80601674

松金 直美 (MATSUKANE, Naomi)
同朋大学・仏教文化研究所・非常勤所員
研究者番号：10549554

万波 寿子 (MANNAMI, Hisako)
龍谷大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：なし

川嶋 美貴子 (KAWASHIMA, Mikiko)
同志社大学・大学院文学研究科・博士後期
課程在籍
研究者番号：なし